



## 2021年を迎えて

社会福祉法人友愛十字会

総 裁 瑠子女王殿下



みなさま、新年明けましておめでとうございます。

友愛十字会総裁をさせて頂いております寛仁親王の次女の瑠子でございます。

この文章を書かせて頂いているのは、昨年の下旬になりますので、少々時間軸が違ってしましますが、ご了承くださいませ。

昨年は、COVID-19の影響により、何もかもが一変した年と申しましょいか、私でいうと37年の間のことではございますが、様々なことで悩んできましたし、色んな事に向き合い・考えてきま

したが、100パーセントの正解がない、誰も有無を言わせない確実な答えを出せない悩ましい出来事が起きたと、私は思いました。それぞれがそれぞれの立場で悩み苦しんだ日々だったのではないのでしょうか？

私は、宮中行事や祭祀などが全て無くなり、公務や私的な活動についても中止又は無期限の延期という状況でした。そして緊急事態宣言が出る前から、自主的に公私問わず基本的に外出はしない、どうしても必要だと思ふ外出については最低限の動きのみにしました。最低限とは、いつ公務等が再開されてもいように、体力を衰えさせるわけにはいかないと考えましたので、御用地の周りをウォーキングすることと生活必需品を買いに行くことのみとし、一日一時間半の間で全ての行動を終えるという生活を送り続け、その期間は人との会話はゼロでした。もとからアウトドアな生活をずる人間ではありませんでしたが、だからと言って沢山の時間ゲーム

をしたり、ネット通販をするような生活も送ってはおりませんでしたので、それも相まってか、想像以上に日々を過ごしていくのは辛いものでした。会話する機会が無いから、どんどん言葉が飛せなくなっていく・頭の回転も徐々に遅くなるのが分かる・流れてくるニュースなどの様々な情報によって自分の気持ちが悪くなっていく一方となり、今まで以上の孤独感や孤立感を味わったように思います。私のスタイルと言いましようか、生き方？過ごし方というのは、公務や私的な活動の中で、沢山の方とお会いし、お話をしたりお聞きしたりしながら、それを自分の糧にして過ごしてきた人生だったので、それが全く無くなり、プライベートで出かけることもしませんでしたので、昨年の約半年で、自分というものを見失いかけるほどになっていたらと、振り返ってみて感じていきます。

そんな半年を送り、さすがにこれは危ない・壊れてしまうと思ひ、公務は全く無いままです。で、プライベートで少しずつ出か

けてみようと思ひ始めました。そうすると、最初の頃は全く会話についていけず、言葉もスムーズに出でこずで、楽しいや嬉しいといった思ひはあるものの、どちらかというと疲れを感じるほうが強かったように思います。そして徐々に話せるようになり、自分がいかに人と会うことを大切にしたい、人の話を聞くことが好きで、何よりも人が好きなんだというのを、改めて再認識しました。

まだまだ公務も私的な活動も今まで通りとはならず、世の中も【ともに】とは言っているものの、モヤモヤ感や前に進むもうと思つても、口では簡単ですが、行動に移すととなると一歩が出ないといった感じではないでしょうか？新年が明けて、これからまたどういった世の中になっていくのだろう？など、皆さん不安な気持ちや悩ましい気持ちでいらつしやると思いますが、それは私も同じ思ひなので、共に乗り越えてまいりましょう。

## 石井 晃

### 参与・元専務理事を偲ぶ

社会福祉法人 友愛十字会  
評議員・前会長 佐々木典夫



最初に、友愛十字会に生涯を捧げた石井晃さんのご貢献に深く感謝し、衷心からご冥福をお祈りします。

九月一五日朝、金井参与から石井晃さんの訃報が入り、夕方には九月一六日午後桐ヶ谷斎場でお別れとなる。法人としても人数を絞ったの参列とのこと。私も駆けつけたかったが、事情を踏まえて参列する執行部に気持ちを伝え、遠方よりご冥福を祈ることとしました。

私の会長兼理事長の在任は平成一五年五月から平成二六年三月まで、石井さんは常務理事として迎え、後半は専務として支えてくれました。このたび石井さんを偲ぶ機会を得ましたので、とても意は尽くせませんが、思い出の一端を記して、せめてもの供養したいと思います。

#### 《「友愛十字会と言えば石井さん」と言われたほどの存在》

友愛十字会は、身体障害者福祉法が施行された昭和二五年に設立されましたが、昭和三三年の法改正で、民間社会福祉法人に身体障害者更生援護施設の設置経営が認められるようになるや、いち早く授産施設の経営に取り組み、昭和三七年に世田谷更生館、昭和三八年に芝浦更生館（後に世田谷更生館に統合）を設置しました。

石井さんは、昭和三六年二七歳の時、この創成期の友愛十字会に入職され、芝浦更生館の指導員を振り出しに、世田谷更生館指導部

長を経て、昭和五年に世田谷更生館館長に就任。平成一一年六六歳で世田谷更生館館長を退任し法人の管理業務に専念するまでの四〇年間友愛十字会の基幹事業の現場で奮闘されました。

平成四年からは法人本部事務局総務部長を兼務して法人全体の管理業務にかかわり、平成七年から常務理事・事務局長として、平成二一年には専務理事に就任、法人全体の統括管理の重責を背負ってきました。平成二六年八〇歳で専務を勇退後も、参与として週一は出勤、宮家との連絡調整はじめ長い豊富な経験を生かして会の発展に尽力されました。このように、石井さんは創立七〇年になる友愛十字会に八七歳までの六〇年間を捧げられました。

#### 《石井さんの仕事ぶり・有能で仕事好きで意欲的》

・私の着任当時は、日本経済は低迷を続け、少子高齢化が一層進んで平成一七年には総人口が減少に

転じるといふ状況下で、持続可能な社会保障・社会福祉構築に向けた改革期でした。戦後措置制度で代表された社会福祉は、介護保険制度や支援費制度に移行し、社会福祉法も改正され、提供する福祉サービスの質・評価が求められることになりました。また、恵まれていた東京都の公私間格差是正の補助金廃止などの事情も加わっていました。

就任当初理事長に出席要請のあったのは、理事会・評議員会のほか、九月の創立記念日での職員表彰、総裁のお出ましになる合同運動会と宮様チャリティーボウリング大会、それに一月の総裁殿下のご誕生日祝いに宮家に参上するといったことであり、必要がある時は専任の常務理事の石井さんが当時の私の職場に説明にきてくれる体制でした。その後私は思うところがあつて、月一回の法人の幹部

（次項へ続く）

会・施設長会には顔を出すようにし、私の後任の小林理事長には、週一＋αは出勤して貰うガバナンスを強化する体制をとりましたが、石井さんは理事長代行的な常務理事で、負担は大きかったと思います。

・当時石井さんが先頭になって取り組んでいたのが、給与体系の見直しであり、もう一つは第三者サービス評価の積極導入でした。

給与体系の見直しは、法人の存続発展には財務の健全化が不可欠と、中高年が多くなるに従って人件費が増大する年功序列型給与体系を廃止して能力・実績評価型の法人独自の給与体系にするもので、コンサルタントの指導を受け、職場あげてのプロジェクトチームを作って、数年かけて検討してきました。福祉業界ではあまり例の見られない意欲的試みであり、大変なエネルギーを投入し、平成一七年度から導入されました。近年の給与の運用の実際は承知していませんが、給与は、不

断にその在り方の検討が必要な経営の根幹をなす最重要事項であります。石井さんは先行きの厳しい経営環境に鑑み法人の持続発展を願って困難な課題に真剣に粘り強く取り組まれました。

・東京都による福祉サービスの第三者評価は今では定着しています。それが、それより先だつて、サービスの継続的改善を期すべく平成一四年度から世田谷更生館と友愛園でISOの認証取得を得ていて、こられた福祉業界では珍しい先験的な取り組みでした。その後順次全施設でISOの認証取得を得、更新してきていることは大変なことと思います。

・平成二一年四月から港区の指定管理者として港区立障害保健福祉センターの運営を開始しました。それまでは友愛十字会は主として身体障害者福祉、高齢者福祉の施設・事業を展開してきましたが、新分野にも挑戦したいとの職員からの積極的提案があり、港区の公募に応募したもので、事業開始に

当たっては、全職場から基幹職員を出し、専務・常務制も敷いて友愛十字会をあげて取り組みました。この事業も軌道に乗るまでには困難な問題も生じましたが、石井さんは、専務理事として先頭に立ってくれました。

・大きな事項のみ上げましたが、私の着任当時職員は二〇〇人に満たなかったですが、やがて港区立障害保健福祉センターの事業拡大に伴って三〇〇人を超える大きな職場になりました。現在では、港区立児童発達支援センター受託事業も加わり更に大幅に増えています。人が採用から始まって傍目には見えない労務管理上の諸問題あるいは、不測の事故や不適切な処遇問題なども生じました。手間取る案件も少なくなかったのですが、平素は出勤しない非常勤理事長に迷惑をかけてはいけないと、石井さんは誠実に解決に尽瘁されました。

## 《第二代総裁寛仁親王殿下の絶大の信頼》

・第二代総裁寛仁親王殿下には、昭和四九年から三八年の長きにわたって友愛十字会は言葉に尽くせないお力を賜りました。総裁ご就任当時、石井さんは世田谷更生館指導部長の職にあり、以降世田谷更生館館長、常務理事、専務理事としてお仕えし、殿下の温かいが厳しいご指導に応えて、絶大の信頼を得ていました。「殿下には通常ではとても得難い、様々な経験やご指導ご助言を賜りました。常に緊張感がありました。私にとつて人生最大の幸運をいただいたことを深く感謝しています」と後に殿下を偲んで本人が述べています。

会長・理事長就任に先立ち寛仁親王殿下に初めてご挨拶に宮家にお伺いしたのは平成一五年五月の夜で、もちろん石井さんの案内でした。二時間近く殿下からお話を伺つての帰りの車の中で「こんなに長く殿下がお話になったという

ことは、気に入られたということですよ」と言う石井さんと「総裁面接は合格ということかね？」と顔を見合わせた場面は今でも覚えていています。

・令和二年度は新型コロナ感染症禍の関係で中止されましたが、長年にわたって行われてきている「合同運動会」と障害者の部もある「宮様チャリティーボウリング大会」は、私は在任中一五回程参加し挨拶などしてきましたが、常に石井さんが傍にあつてお役目を果たせたようなものでした。現在の方式に定着したのは、殿下の企画構想力と石井さんの実行力があつてのことであり、お二人のいわば合作の行事と言つてよいと思います。

石井さんは、合同運動会では、車いすに乗つてのスポーツチャンバラなどで活躍し、終了後は殿下もお出ましで実行委員と反省会をするという真剣な取り組みぶりでした。宮様チャリティーボウリング大会では、石井さんは舞台回し

をするとともに、数年前からは腰痛で出場はしなくなりましたが、障害者の部のスカッチトリオ戦で華麗なボウリングを見せてくれていました。

・このほか、殿下のお誘いで施設の入所者と職員を引率して長年にわたつて「スキー教室」に参加して親しくご指導を受けられたとのことともよく聞いていました。

殿下からは、自分はスキーの指導者で体育会系だ。机上の福祉は嫌いで、福祉の現場監督である旨のお話を伺っていましたが、石井さんも若い時はバスケットボールをやつた長身に恵まれたスポーツマンでしたので、以上の諸行事などには、殿下のご指導の下に率先して取り組み、楽しまれたように思います。

### 《石井さんの車とゴルフと》

・在任中、石井さんの車にも大変お世話になりました。砧の本部に出向くときは、往路は成城学園前駅からタクシーに乗りましたが、

復路は石井さんが対向車が来ると譲り合わなければならぬ教習所のクラシクのような狭い裏道をすいすいと送つてくれました。もとより宮家にご挨拶などに伺う時もそうでした。石井さんは、愛車で都内のどこへでも行き、公共交通機関の切符の買い方を知らないのではないかと思えるほどで、最後までマイカーを手放しませんでした。

・人格温厚にして有能な仕事のできる男であると同時に、人づきあひもよい男でした。石井さんとは二度ほど私のホームコースでゴルフを楽しみました。最後のゴルフは平成二二年で、ご一緒した理事の板山賢治さんは八四歳と思えないお見事なゴルフでしたが、時に七七歳の石井さんはこんなはずではないのだが、とボヤキが出るいまいちの内容だったように思います。石井さんは寛仁親王殿下が主催するチャリティーゴルフ大会に殿下に随従して参加したことも多いが、長身を生かしたタフ

なゴルフを誇つていたようですので、全盛期に比べてのボヤキだったのでしょう。石井さんの当時の年齢を過ぎての最近の私のラウンドから、石井さんの気持ちがよくわかります。その後、会長とはぜひもう一度ゴルフをしたいと言つておられたのですが、腰痛を訴えるようになったことなどもあり、残念ながら果たせませんでした。

最後に、友愛十字会の事業運営を今後ともしっかり進め、持続発展させることが、友愛十字会に生涯を捧げた石井さんへの何よりの供養と思いますので、現役の皆さんには石井さんが天上から安心してみていられますようになお一層のご精進をお願いいたします。

誠実、有能にして品位の有る本物の紳士であつた石井さんの温容を偲びながら、重ねてご冥福を祈り、筆をおきます。

## 福祉施設における

### 新型コロナウイルスの

### 感染防止対策の徹底

社会福祉法人友愛十字会  
会長・理事長

蒲原 基道



新たな年をお迎えのことと存じますが、皆さまには、本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の感染がおさまらず、福祉施設においても、引き続き、十分な警戒が必要です。対策の中心は、事業運営を行っている法人であるの言うまでもありません。また、これまで、地域の皆さまから手作りマスクをいただくなど大変な支援をいただき、大きな力となっています。その上で、今後、市区町村、近隣の福祉

事業者とのさらなる連携が重要だと思います。

一つには、同じ地域内の他法人との協力です。これまで、福祉施設でクラスターが発生した場合をみると、当該施設では、感染者は当然のこと、濃厚接触者も一定期間出勤できなくなるため、対応できる職員が大幅に少なくなります。一方で、感染者が出た施設では、通常業務に加えて多くの追加的な感染拡大防止業務が生じます。この場合、大規模な法人であれば当該法人の他地域にある施設の職員の応援を得ることも可能ですが、小規模法人であれば大変な事態となります。こうした事態を避けるために、一部の地域では、地域内の施設が事前に協定を結び、感染症発生時の職員の応援派遣の

仕組みを作っています。確かに、これまで、感染症発生後に応援してほしいといってもなかなか応援を得にくい実態がある中で、事前にも協定を結ぶことで自らのリスクにも対応できるという意味で、こ

きになっています。

～私たちには地域の力がある～

## 新型コロナになんか絶対に負けません！

砧町町会理事の堀場明子様から  
手作りマスクをいただきました！



堀場明子様 (砧町町会事務所にて)

砧あんしん  
さくやかセンター長  
山本 厚理

砧サービス  
センター長  
小泉 貴宏

ありがとうございました！  
皆様と一緒に頑張ります！

さらには、感染症発生直後に、感染症専門家に当該施設にすぐに来てもらい、施設としての感染拡大防止策のチェックをしてもらうことも重要です。もちろん福祉施設側として、さまざまなガイドラインなどに沿って対策を講じるにしても、それが本当にうまくやれているかどうか、専門家にみてもらうことで、万全の対応にしようというものです。例えば、港区では感染症専門家が指定されていて、事前も含めてさまざまなサポートを行うことになっています。ぜひとも、こうした取り組みが多く地域に広まってほしいと考えます。

の助け合いの仕組みには参加が見込まれると思います。友愛十字会としても町田市ではこの種の協定に参加していますし、東京都社会福祉協議会でも福祉施設団体と協力して応援体制を組もうという動

まだまだ、新型コロナウイルス感染症との戦いが続くと思われれます。福祉施設自身の対策の充実を大前提としつつ、行政、地域の皆様方、他施設とも連携しながら、利用者、職員の安全、安心の確保に一層取り組みんでいく所存です。

## 創立70周年を迎えて

社会福祉法人 友愛十字架  
常務理事 酒井 健治



令和2年6月の定時評議員会において選任され、常務理事に就任した酒井です。

厚生労働省（厚生省）、全国社会福祉協議会の勤務を経て、平成30年4月に友愛ホーム園長兼総務部長として採用され、法人での勤務も3年目となりました。改めてどうぞよろしくお願いいたします。

歴代総裁のもと、歴史と伝統のある法人の役員はたいへん重責に感じています。蒲原会長・理事長をはじめ役職員の皆さま、諸先輩の皆さまのご指導、ご支援、ご協力をお願い申し上げます。

さて、昨年9月25日に当法人は創立70周年を迎えました。この間、関係の皆様には多大なるご

支援をいただき、役職員一同、心から感謝を申し上げる次第です。

当法人では、記念式典等は、前総裁寛仁親王殿下のお言葉により創立75周年にということで、各施設、事業所の概要や事業の実施状況など、創立60周年以降の10年間をまとめた記念資料誌を作成いたしました。

この10年の施策の動向を見ますと、障害者関係では、平成23年6月に障害者虐待防止法、平成24年6月障害者総合支援法、平成25年6月に障害者差別解消法が成立するなどし、高齢者関係では、介護保険法が平成23年に地域包括ケアシステムの実現を目指した改正法、平成26年に地域支援事業の充実、予防給付の見直し等を含めた改正法、平成29年には高齢者の重度化防止、地域共生社会の実現を図る等の改正法が成立しました。

この間、当法人における障害者関係の施設等では、法律に沿ってまいりました。世田谷更生館のあった建物は、平成23年3月の東日本大震災の発生後に耐震強度が不足

することが分かり使用を控えており、板橋区にある東京聴覚障害者支援センターは建物や設備の老朽化が進むなど、今後、計画的に整備が必要となつてきています。

港区立障害保健福祉センターは、平成21年4月に港区から指定管理者として当法人が運営を委託され事業の充実を図りながら運営し、令和元年7月に、令和2年度からの10年間の指定管理者の指定を受けました。また、港区が南麻布に新たに設置した港区立児童発達支援センターも、こども療育パオでの経験をもとに令和2年度からの10年間、指定管理者の指定を受けることとなりました。

高齢者関係の施設等では、平成28年に砧ホームが「東京都ロボット介護機器・福祉用具活用支援モデル事業」を受託し、介護ロボット等の活用により人手不足をカバーし介護の質を高める先進的な運営に取り組んできています。昭和49年に設置した町田市にある友愛荘は、老朽化した施設の移転改築工事を令和元年12月に着工し、本年3月に完成する予定となつており、完成後は70床のユ

ニット型（短期入所含む）及び40床の多床室型で運営することとなっております。

砧地域包括支援（あんしんすこやか）センターにおいては、平成26年10月に世田谷区から「地域包括ケアの地区展開モデル事業」を受託し、対象者を高齢者に限らず障害者や子育て家庭からも相談を受けるといふ先駆的な取り組みを行い、それを実践してきています。

今後も、当法人はそれぞれの地域において、ウイズコロナの時代でありますが、行事などを通し地域の皆様と連携することや、法人の理念である「共に生きる」の実現に向けて取り組んでまいりますので、関係機関をはじめ、地域の皆様のご支援、ご協力を引き続きお願いいたします。

最後に、昭和36年に入職し一貫して当法人の発展に寄与され、世田谷更生館館長、常務理事、専務理事、参与などの要職を務められ生涯現役で昨年9月に逝去されました、石井晃様のご冥福をお祈りいたします。

## 就任のご挨拶

友愛ホーム

園長 島村 力夫



令和2年7月より、友愛ホーム園長に就任いたしました島村と申します。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

歴史ある当法人で仕事をさせていただくことになりましたことに、大きな責任を感じるとともに身の引き締まる思いが致します。就任からこれまで、周りの職員の皆様にかけていただきながら業務に取り組んでまいりました。まだまだ全貌をつかむまでには至っておりませんが、当法人の活動は高齢福祉、障害福祉、児童福祉と多岐にわたり、多くの利用者の皆様と様々な職種の職員が活躍されており、特に、地域の方々に多くのご協力をいただきながら地域に根ざした法人・施設として活動が進められていることを強く感じて

います。

これまで、諸先輩方が築かれてきた地域との「きずな」がまさに今日の法人の活動に結びついているという印象を持っています。

本年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、大変残念ですが、地域との連携を図る行事等の多くが中止となつてしまいました。また、利用者の皆さんにもコロナの影響で不要不急の外出を控えていただくなど、ご不便、ご不自由をおかけしており、大変申し訳なく思います。しかしコロナの影響はまだしばらく続くようですので、「ウイズコロナ」、「新しい日常」としてコロナを正しく恐れ、正しく予防するために「密を避ける」「マスク、手洗い、うがい」などの基本的な感染症予防策に引き続き取り組んでいただきますようお願い致します。

1日も早くこのコロナ禍が収束し、元の通りの元気な友愛十字会を関係者の皆様にご覧いただけることを願っております。

今後とも、本法人の理念である「共に生きる」という理念のもと、利用者、地域の皆様、職員が協力しながら、法人・施設の運営

にあたってまいる所存でございますので引き続きご支援ご鞭撻をいただきますようお願い申し上げます。

## 行政と双方向の

### コミュニケーションを

港区立障害保健福祉センター

事務長 大滝 裕之



昨年4月1日付で港区立障害保健福祉センター事務長を拝命しました。出身は北海道札幌市です。昨年度まで港区の職員として勤めておりました。どうぞよろしくお願ひします。

さて、本年度から港区立障害保健福祉センターの指定管理者として新たな10年がスタートしました。今後は、これまで以上に利用者個々のニーズに寄り添った事業運営を行うとともに、不断の経営努力により、長期的に安定した運営を行うことが求められています。

一方で、港区はこれまで区民サービスの向上を目指して指定管理者制度の導入を推進してきた結果、実際に施設で現場経験がある区職員は年々減少し、今では数えるほどになっていきます。

区の指示どおりに業務を行うと、現場ではどうもしっくりこないということはないでしょうか。

本来、指定管理者制度は、委託業務のように発注者の仕様どおりに受託者がサービスを提供するという一方的なものではなく、双方向のコミュニケーションを通じて、より一層充実した住民サービスを提供していく制度です。

行政と指定管理者が社会福祉の向上という共通の目的に向かって、日ごろから率直に意見を出し合つてこそ、利用者や地域から信頼され、期待される役割を果たしていけるのだと思います。そのような関係づくりに努めていきたいと思ひます。

今後「感じる」「創る」「つながる」の実践を通して地域社会への貢献ができるよう、皆さんに負けないように頑張ります。ご指導ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。

## 就任のご挨拶

港区立障害保健福祉センター  
放課後等デイサービス  
施設長 朝山 智美



このたび、令和2年12月1日より港区立障害保健福祉センター放課後等デイサービスの施設長として就任いたしました朝山と申します。今回、港区で初めての試みである医療的ケアの必要な障害児を含む重症心身障害児対象の放課後等デイサービスの事業を開始するにあたり、4月から沢山の方々のお力をお借りしながら準備を進めようやくスタート地点にたどりつきました。

港区内には特別支援学校と特別支援学級の小学校や中学校がありますが、医療的ケアの必要な重症心身障害児を受け入れる学校はなく、みなさん区外の特別支援学校へ通っているのが現状です。これまで小学校から高校を卒業するまでの12年間を地域で過ごすこと

が少なかつた子どもたちが放課後の時間を地域で過ごせるようになることは、学校卒業後、生まれ育った港区で自立した生活をしていくうえでとても大きな意味があると考えています。また、12月から5名定員でスタートしますが、令和3年4月には定員20名になります。20名定員の放課後等デイサービスは東京都内に例はなく、初めての試みになります。

港区にお住まいの重症心身障害児のご家族の沢山の思いがつながりこの居場所づくりへのきっかけになっていきます。重症心身障害児の福祉の歴史は親の子どもに対する思いから始まっており、私も沢山のお母さん方のお話を伺ってきました。私が重症心身障害児の支援に関わってきたのもお母さん方の思いに導かれてきたといっても過言ではありません。思いを形にしていくことは簡単な道のりではなかったと思います。そのような思いが届き港区で形になっていく一端に関われることを幸せに思っています。そしてここでスタートした医療的ケア児の支援を一日一日積み重ねていくことで、子どもたちが大人になったときの社会にながっていくと信じています。まずは子どもが学校以外の自分の家

の近所で楽しみにできる遊び場、ご家族が安心して預けていただける居場所づくりを目指して一つずつ丁寧に支援をしていきたいと思っています。

これから温かく見守っていただき、そして私たちが成長していくための末永いご指導どうぞよろしくお願いいたします。

## ピンチの時にこそ前向きに

港区立障害保健福祉センター  
みなとワークアクティ  
施設長 柴田 泰礼



昨年4月1日、港区立障害保健福祉センター就労継続支援B型事業所のみなとワークアクティ施設長を拝命しました。

私は、友愛十字会がセンターの指定管理者として施設運営を初めて受託した平成21年の6月に生活支援員として「みなとワークアクティ」に配属され、職業指導員を経て12年目となります。

今年度から指定管理者として新

たな10年がスタートしましたが、年度早々から新型コロナウイルス感染症により、事業所の利用自粛や行事・イベントの中止、製菓事業の注文及びその他仕事の受注の激減といった苦戦を強いられています。この状況を打開できるように今までの行い方に捉われず、発想の転換や工夫をこらしています。例えば、購入しやすいよう一部のお菓子を特別ミニサイズでワシンの価格設定に変更したり、注文が集まりやすいよう商品メニューにチラシを挟み込むなどし、売上(利用者の工賃)の回復に努めています。

また、今年度よりセンター1階にある飲食店(喫茶等)の運営を行うことになりました。オープン時期は、センター改装工事終了後の12月または1月頃を予定しています。コロナ禍の中での事業拡大ですが、利用者が働きやすく、地域の方が利用しやすい憩いの場を目指していきます。

最後に、今後も港区民の皆様方からより信頼される「みなとワークアクティ」を目指し、日々精進し最善を尽くして参ります。今後とも皆様からのお力添えと、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。

## 勤続30年を迎えて



コーポ友愛  
支援員  
宮下 恒一

平成2年3月、世田谷更生館の職業指導員として配属されてから早いもので30年、福祉の学校を卒業した自分に務まるのだろうか：ドキドキしながら毎朝出勤していた記憶が今でも鮮明に残っています。しかし、当時は本館と別館を建築している真っ最中で、1日1日があつという間に過ぎていき、そんな不安なことを考える余裕すらなかったことが逆に良かったのかもしれない。それから多くの先輩方や同僚に、そして何より利用者の方々の始め、本当に多くの方々に支えられてきたおかげで、毎日楽しく仕事を続けさせていただけただことに感謝の気持ちの他ありません。現在はコーポ友愛に在職しておりますが、引き続きこれからもよろしくお願いたします。

## 勤続20年を迎えて



友愛書房  
店員  
三栗 敏子

この度は、永年勤続表彰を頂きまして誠にありがとうございます。厚生労働省内の地下一階角から中央への引越の際は、石井参与はじめ本部の皆様にご協力頂き本当にありがとうございます。私は、書籍と霞が関に縁がある様で、この二つとはもう40年近くになりました。以前は日比谷図書館前のプレスセンター一階の丸善にありまして、そこから次の就職活動で再び偶然にも場所は霞が関、仕事は書店という友愛書房に受け入れて頂き本当に救済されたという気持ちです。インターネット全盛になり、全国的に書籍販売の伸びは下降しておりますが、大好きな本の仕事が続けられる事を皆様に感謝申し上げます。



港区立児童発達  
支援センター  
運営管理部長  
池田 慎一郎

私は、平成12年5月に友愛十字会に就職しました。就職した当時は、まだパソコンが導入されておらず手書きで会計伝票を書いていたことが懐かしく感じられます。

この20年間、法人本部・高齢者施設・障害者施設・指定管理事業所など様々な分野の経理や報酬事務を担当させていただきました。昨年は、私が現在勤めている児童発達支援センターの開設準備に携わり、とても大変でしたが無事開設できたことに安堵しております。コツコツやることだけが取り柄の私ではありますが、これまで助けてこられたのは周囲のサポートがあつてこそであり感謝申し上げます。仕事人生としては折り返し地点です。これまでの経験を活かしつつ時代遅れにならぬよう新しいことも習得し今後がんばって参りたいと思っております。



砧デイサービス  
センター  
主任看護師  
吉岡 久美子

友愛十字会にご縁をいただいたのは、平成12年の公的介護保険が始まった年でした。早いもので、医療現場より福祉業界の方が長くなりました。

この20年間は、地域の皆様方とたくさん時間を共有させて頂くことができました。「辛くて悲しいこと」から「楽しくて嬉しいこと」まで、職場の仲間と一緒に励まし合いながら、葛藤と歓喜を繰返す毎日でした。医療では患者様の背景にふれることは少ないのですが、福祉ではその方の背景にきちんと共感することが大切であることも学びました。一人ひとりができることには限りがあります。しかし、ご利用者やご家族、地域や職場の仲間が目標に向かって一つのチームとなれば、必ず道は開けると信じています。私一人でできることは何もありませんが、チームでならびできることは無限大です。これまでこうして私を支えてくださったすべての方々に、この場をお借りしてお礼を申し上げます。本当にありがとうございます。これからもどうぞよろしくお願いたします。

## 「人材確保・育成推進室」 発足について

社会福祉法人 友愛十字会  
人材確保・育成推進室  
室長 宮崎 浩

今年度、当法人の職員総数は非常勤を含め40名を超えました。その9割を転職者が占めています。「今より働きやすく、働きがいもあり、待遇も良い」が転職の条件とすると、求職者からある程度の評価を得ていると想定できます。であるならば、最初からこの法人で勤めてもらえるような仕掛けや努力がもつと必要です。また、当法人の昨年度の離職率は12.4%で、業界の平均値より幸いやや低めとなっています。職員が「永く元気に活躍し地域福祉の向上に貢献する」には、法人自らが成長を続け、職員一人ひとりが、学び合い・讃え合える組織を醸成することが大切です。（因みに砧ホームでは、「学び愛、讃え愛、成長し愛の3つの愛」を職員共通の価値として定め、次々と大きな成果を上げています。）

現在、都内では「介護職員1名を7事業所が奪い合う状態」と言われています。日本は今後も人口が減少し20年後には、生産年齢人口が53%となる一方、高齢者は36%に増えると推計され、介護人材も急速に不足することが明らかです。この状況下で人材を確保できている法人は「専任の採用担当者」を配置し戦略的に採用活動を推進しています。そうした取り組みがなかった当法人は、これまで「福祉サービスの質」に重点を置き、「そのサービスの提供する人」へのアプローチが明らかに不足していました。

これらを踏まえ令和2年7月、法人本部に「人材確保・育成推進室」を立上げ、同室に「育成委員会」を設置しました。同時に「リクルート推進室（平成30年〜）」と「教育委員会（平成13年〜）」は発展的に解散しました。この経過は、蒲原理事長からの3つのメッセージ「①職員の確保と育成は両輪のごとく一体的に活動すること。②各事業所は互いの知見を共有し連携を強化すること。③他法人とは人材を奪い合う敵対関係でなく、共同して研修会を開催す等、コロナ禍においても支援し合える協力関係を築くこと。」に基づいています。



12月に漸く採用できた「専任の採用担当者」には、本人がハローワークや学校へ足繁く訪問を重ねてきた異業種での経験を、当法人でも存分に発揮できるように支援体制を整えました。まずは、アル等、様々なリクルート活動を積極的に推進します。

新たに設置した育成委員会には、チームケアを重視し、後輩の活躍をサポートできる発信力の高いメンバーに参集してもらいました。教育委員会は「経営学者P・ドラッカーを学ぶ」ことから始まりましたが、育成委員会では、そのドラッカーの名言の一つ「組織そのものが学び、且つ教える組織とならなければならない」を、どのように実現し継続させるかを検討しました。そして、「全国社会福祉協議会福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程」を法人研修の主軸とすることを決定しました。

3名の育成委員には、初任者・中堅職員・チームリーダーの階層別研修の講師を務めてもらうこととし、これから所定の「指導者講習」を受けてもらいます。来年度には、階層別の法人研修を外部講師に頼ることなく開催し、この活動を引継ぐ後進の育成を同時に推進します。

地域の福祉向上が、私たち共通の使命です。その使命を果たすために、より多くの職員と共に「学び合い、讃え合い、成長する」組織づくりに挑戦します。友愛十字会は創設から70年を経て、新たな一歩を踏み出しました。

## ソーシャルダンス音頭

砧デイスタービスセンター

センター長 小泉 貴宏

当センターの才能豊かなミュージシャン齋藤真文介護職員は、キーボード、ギター、三味線そして自身の歌声を駆使して、様々な場面でご利用者に素敵な音楽を届けています。

中でも月に一度開催する「誕生日会」では、スタッフが詞のアイデアを出し合った上で彼が作詞作曲して2015年に出来上がった「デイスタービスへ行こう」を毎回披露し、ご利用者と一緒に歌っています。

砧デイの歌としてすっかり定着したこの曲をCD化して、記念にご利用者に配付することを今年度の事業計画に掲げたのですが、「せっかくCDを作るのならもう1曲収録したいね。」という話が浮上りました。

時を同じくして、予想だにしていなかった新型コロナウイルスの感染拡大が私たちの暮らしに暗い影を落としていました。そんな中

で完成した曲が「ソーシャルダンス音頭」です。

『ソーシャルダンス 大事な時も 心の距離は離さずに近くにいろよ』

出来上がった曲を齋藤職員に初めて聴かせてもらったとき、想像を遥かに超える素晴らしさに目頭が熱くなったのはナイショです。

この曲を聴き、私を含めて盆踊りが大好きな砧デイのスタッフが抱いた思い：それは、「多くの人にこの曲を届けたい。そして、みんなで一緒に踊りたい！」でした。

ここからの展開は驚くほどの速さでした。

昨年の盆踊り大会は、残念ながら軒並み中止となりました。みんなと一緒に踊ることが叶わないのなら、地域の皆様にソーシャルダンス音頭を踊ってもらい、その姿を動画に収め、それを編集して一つの映像作品にする。様々な人々の協力を得て、介護とソーシャルダンスを十分に意識した振り付けが完成し、案内のチラシができ、動画募集のホームページが立ち上がりました。

募集期間は8月の約1か月間。

友愛十字会の各施設のご利用者、理事長以下各職員、そして、砧町会を始めとした地域の皆様方、さらには口コミで企画を知った近隣の方々や募集司をご覧になった一般の方まで、合計で200名近い方々にご参加いただきました。

自分の場所で、自分の時間に、自分らしい格好で踊る姿：私もいくつかの撮影現場に立ち会いましたが、皆さんの、はにかみながらも溢れる笑顔が非常に印象に残っています。

この原稿が掲載される頃には既に映像作品は完成し、皆さんにご覧いただけていることと幸いです。作品の完成は楽しみで仕方ない所ではありますが、その先に見据えるもの：

今年の盆踊り大会では、齋藤職員の生の歌声で、和響太鼓の皆様の演奏で、地域の皆様と汗を掻きながら思い切り踊れることを今から夢見ています。

そんな未来が訪れることを願って、今日もソーシャルダンスを保って生活しています。



## 安全・安心 防犯訓練

港区立児童発達支援センター  
副センター長 田村 英治

港区立児童発達支援センター、通称「ぱお」には通園や個別指導など様々な目的で毎日100名以上のお子さんやご家族が通ってこられます。その皆さんが安全・安心に過ごされるために何ができるのか。このようなことを考えながら職員は毎日活動しています。

そのなかで芝にいた頃から続けている安全・安心のための活動のひとつに「防犯訓練」があります。が、南麻布への移転にあわせて職員も昨年度の1.5倍近くなり、令和2年10月1日現在で常勤・非常勤あわせて73名(育休中職員を除く)が働いていますが、訓練を受けていない職員もいます。そこで今回は、南麻布に引っ越してきて所管する警察署がかわり、麻布警察署 生活安全課 防犯係の皆様にご協力いただき、児童発達支援センターぱおで初めての防犯訓練を10月1日に実施しました。

訓練は新たに採用された職員を中心に、刺股(さすまた)の訓練を



↑ 不審者役の警察官に立ち向かう職員 ↓

行いました。刺股は、U字形の金具に1.5メートル程度の柄がついた武器で、ナイフなどを持った不審者などを壁などに押し付け、動きを封じ込めることができます。

最初は警察の方に使い方を教えていただき、その後職員は2人1組になり、不審者役になっていただいた警察官に立ち向かっていきました。不審者役の警察官がナイフ(偽物)を振り回すことで緊張感ある訓練が実施できます。また訓練中には「刺股の先を持ちすぎるとナイフで手を刺されてしまう。」など、具体的なアドバイスをいただきましたながら進めることがで



きました。参加した職員の多くは女性でしたが、日ごろから鍛えている犯人役の警察官からも「このくらい力強く向かっていけば大丈夫です!」とお墨付きをいただきました。

いざ本場に不審者を発見したとき行動できるよう今後も計画的に訓練をしていきたいと思えますし、不審者が入り辛い施設づくりのためにも日ごろから挨拶を積極的に行うなど、お子さんが安全・安心に過ごしていただけるようこれからも活動してまいります。麻布警察署の皆様、ご協力ありがとうございました。



麻布警察署の皆様と一緒に

## 聴覚障害者支援センターの これまでとこれから

東京聴覚障害者支援センター  
所長 高橋 秀志

東京聴覚障害者支援センターは、令和2年7月に55年を迎えました。

施設が開設されたのは昭和40年(1965年)7月25日。昭和39年10月に東京オリピックが開催された翌年にあたります。利用者定員30名。聴覚・言語障害者の方を対象にした更生施設として出発しました。

平成22年度まで都立民営施設(第1号)として、東京都から運営委託及び指定管理を受けて社会福祉法人友愛十字会が運営してきました。平成23年度に東京都より民間移譲を受け、引き続き法人が運営を続けています。平成23年度から始めた短期入所利用者も含めると、これまで全国から来た千名を数える方々の支援に携わってきました。

福祉制度の改正(障害者自立支援法、障害者総合支援法)に合わせ、現在は施設入所支援、就労移行支援、自立訓練(生活・機能訓練)、就労継続支援B型、短期入所支援(空床型)、指定特定相談支援事業等併せて7つの事業を行っています。名称も、東京都ろうあ者更生寮から東京都聴覚障害者生活支援センターになり、民間移譲後現在の東京聴覚障害者支援センターと成りました。現在は入所利用定員30名に加え、通所部門(就労移行支援、就労継続支援B型)10名を設け、計40名定員として運営しています。

最近の利用傾向として中高齢者や、聴覚障害の他に内部疾患や視力障害などの障害を併せ持つている方が大部分です。支援内容も時代と共に変わり、個々のニーズに合わせた支援サービスが求められています。以前のような、一般企業への就職、地域自立の例は少なくなってきました。こうした中、平成27年10月から新たに開



(令和元年・第37回板橋ふれあい祭り参加)

者団体との合同餅つき大会や地域行事等へ参加を続けています。そして、センターでは中長期として抱える重要な課題の一つとして施設の全面改築問題があります。この改築をすすめていくにあたり、障害のある方の安全性はもとより、ニーズに即した地域社会との関係を重視した、信頼される社会資源施設となるよう、東京都を始め、関係協力者の方々の意見を踏まえ取り組んでいきたいと考えています。新たな全面改築計画は、2020年東京オリピック開催時期と相前後し、先の開設年代と重なる不思議な巡り合わせを感じています。



ありがとう

「あなた」と共に

〜新施設に向けたWGの取り組み〜

友 愛 荘

園 長 藤 田 康 子

移転改築について建設は順調に進捗していますが、運営面での取り組みとして「改築PT」を立ち上げ、検討を進めています。

プロジェクトメンバーについては、新しい施設づくりに是非参加したいという人を公募し、意欲のある12人が手を挙げてくれました。

ワークショップを通して職員同士の相互理解や価値観を共有し、友愛荘の良さ・友愛荘らしさを明確にすることで想いを引き継ぐコンセプト作りを目的としてスタートしました。

第1期ワークショップでは『どんな施設を作っていききたいのか』、友愛荘の良いところ・変えたいところを全職員にアンケートを実施し、施設全体の意見を集約しました。

第2期ワークショップでは『自



ワークショップの様子

分たちの「らしさ」を探る』をテーマとして、全職員に実施したアンケートから「新たに取り入れたいモノ・コト・想い」「変えたくないモノ・コト・想い」「捨てたいモノ・コト・想い」に分類してコンセプトワードの選定を行いました。全体的に「新たに取入れたい」「変えたくない」や「捨てたい」よりも多く上がり、職員一人ひとりが新たな友愛荘に思い描く「夢と希望」の表れだと感じました。

第3期ワークショップでは『移転先での自分たちのありたい姿を

見つける』というテーマで議論を重ね、『「あなた」と共に』というコンセプトの決定に結びました。理事長からも「このコンセプトをどのようにして打ち立てたのか、今いる人だけではなく何年経ってもそうした想いを引き継いでいかれるようなものにしてほしい」とメッセージをいただきました。

ワークショップを通して職員同士の価値観や介護観を共有することができ、個人の想いや施設全体での共通認識を高め友愛荘らしさを言語化することができました。備品や家具においてもコンセプトに立ち返りながら利用者の状況とニーズに合わせた選定が行えました。

コンセプト決定のプロセスを経たことで自分たちの施設の現状を客観的にみて、自分たちが行ってきたことや、今現在行っていることをもう一度見つめなおす良い機会になりました。また、現状もプロジェクトは進んでおり、『「あなた」と共に』のコンセプトを基盤に、より良い未来の実現に向け



完成予想図

て尽力していきたいと思えます。建築においては、10月30日（金）に上棟を迎えました。これまで外観のみでしたが、内部にも入れるようになり、実際の大きさを体感することでより具体的にイメージができるようになりました。開所まであと6か月となりました。建築と同時に運営面での準備も進んでいます。無事に開所日を迎えられるよう、職員一同頑張っています。

# 善意のかずかず

次の方々から利用者及び施設に対しましてご奉仕等  
を賜り、また、善意の金品のご寄贈を頂きましたこと  
に対して、心より御礼申し上げます。  
(令和2年7月1日〜令和2年11月30日)

## 奉仕活動

### ○友愛デイ

サービスマン

岸井 豊子

久保山 由美子

関沢 勢津子

山川 敏江

### ○友愛ホーム

砧幼稚園

### ○砧ホーム

まほの会

### ○砧デイ

サービスマン

梅津 祥子

加納 敦子

川口 栄子

坂井 知

寿乃田 雅子

田村 正子

橋本 聡子

山下 康代

脇田 由美子

### ○砧あんしん

すこやかセンター

鎌田 セツ

清水 校子

西多 法子

野崎 眞喜子

山田 哲夫

### ○東京聴覚障害者

支援センター

青野 美重子

## 寄付物品

### ○本部

足立 美子

堀場 明子

矢藤 清光

矢藤 広進

砧町町会

会長 長島 日出男

(公財)日本手工芸作家連合会

佐久間 恭子

### ○友愛園

岡本 和子

ENEOSホールディングス(株)

世田谷区障害福祉部

障害者施策推進課

障害者地域生活課

障害者保健福祉課

東京都障害者施策推進部

### ○砧ホーム

竹内 秀雄

藤間 英治

韓国人参公社ジャパン

キタケンコーポレーション

### ○砧デイ

サービスマン

小山 京子

矢野 定基

和田 眞子

### ○友愛荘

柴田 真澄

堀 信子

山崎 芳男

(特非)ピースウィンズジャパン

(敬称略)

## 職員異動

(令和2年7月1日〜  
令和2年11月30日)

### ○就任

常務理事

酒井 健治

参 与

金井 博

友愛ホーム園長

島村 力夫

### ○併任

法人本部事務局

総務部次長

宮崎 浩

法人本部事務局

総務部次長

島村 力夫

### ○退任

参 与

石井 晃

## 編集後記

新年あけましておめでとうございます。

令和三年の年明けを皆様はどのようなようにお  
迎えてでしょうか。昨年は新型コロナウイルス  
スに席巻された一年でしたが、今年には人類  
の英知を結集し、正しく予防しながら健全  
に前に進む年でありたいと思います。

六月には特別養護老人ホーム「友愛荘」  
(町田市)がリニューアルオープンいたし  
ます。建設に係る借入金規模からしても  
法人の浮沈を左右する重要事業であります  
が、激化していくばかりの福祉・介護人材  
不足に、その船出は決して順風満帆とは言  
えません。ここでも法人の英知を結集して  
前進することが求められています。

令和二年を表す漢字は「密」であったそ  
うですが、今年、我々友愛十字会は「進」  
を有言実行いたします。

後記ではございますが、ご愛読を賜りま  
す皆様方に、編集委員一同、心より御礼申  
し上げます。次号、第53号も、乞うご期  
待。

ゆうあい編集委員会 副委員長

砧ホーム 園長 鈴木 健太

ゆうあい 第五十二号

令和三年一月一日

発行 社会福祉法人友愛十字会

発行人 酒井 健治

所在地 東京都世田谷区

電話(〇三)三四一六一・三二六四

http://www.yuai.or.jp

表紙写真…港区立児童発達支援センター 池田慎一郎